



未来の子どもたちのために プラスチックを正しく活かす

生活に欠かせない大切な資源であるプラスチックを
適切な処理で使い続けていく。



秋田エコプラッシュ 株式会社

秋田県能代市に本社を構える秋田エコプラッシュ株式会社は、平成16年2月に創業。北東北エリアのエコタウン事業の補助金を活用し設立されたという。平成28年に「日本パレットレンタル株式会社」が経営に参画、現在は家庭から出る廃プラスチックをリサイクルし、大型射出成形品に作り変える事業をメインとしている。令和6年から代表取締役社長を務める小泉剛さんにお話を伺った。

代表取締役社長 小泉 剛

〒016-0122
能代市扇田字扇田11-1
TEL 0185-58-5600
FAX 0185-58-5601
<https://ecoplash.co.jp/>



HP



再生プラスチックから 大型成形品を製造

平成28年からプラスチック再生事業に関与することとなった経緯について小泉さんが教えてくれた。

「私は親会社である日本パレットレンタル株式会社に貸し出すパレットを調達する業務に携わってまいりました。大量調達の裏には大量廃棄があり、資源の有効活用の必要性について強く考えるようになっていました。そこへ、大型射出成形機を持つ秋田エコプラッシュ株式会社から経営参画の打診があり、再生プラスチックでのパレット製造を検討していたことから話がまとまりました。」

同社では、国内でも珍しい低圧プランジャー式大型射出成形機を保有しており、廃プラスチックから製造したペレットを原料に、大型のプラスチック射出成形品製造が可能だ。主力製品として、駐車場や学校のグラウンドなどの地下に埋設し、雨水を貯める雨水貯留槽やU字溝などを製造していたが、ここに新たにパレットが加わることとなった。



射出成形機のパレション作業。

廃プラスチックの受け入れから 成形品製造まで一貫通貫で対応

現在同社では、廃プラスチックから再生原料を製造する事業、成形機で製品を製造する事業を行うほか、新たに再生プラスチックの物性（強度や耐衝撃性等）を改質するコンパウンド事業に注力している。

「令和6年に国は大量生産・大量消費から大きく方針を変えて『プラスチック資源循環促進法』を施行しました。



再生プラスチックの原料となるペレットの製造を行っている様子。

プラスチックは今や生活に欠かせない重要な資源です。使用したものを資源と捉え、再利用することが求められています。当社では家庭から出される年間約5千トンの廃プラスチックを受け入れ、再生原料を製造、コンパウンドで求める物性に改質し、成形品まで製造しています。一口にプラスチックといっても、原料や組み合わせはその製品によって様々だ。工場内では、人の手と光学選別機によるプラスチックの分別作業を徹底的に行った上で原料化している。

「全国で廃プラスチックを受け入れている事業所は40社弱。うち30社程度がペレット製造、残る10社は成形品まで作っていますが、その中で当社はダントツ1位の成形技能を誇っています。設計に係る構造解析・流動解析をはじめ、高品質の大型成形品を製造することまで自社で『一貫通貫』して行えることが当社の強みです。」

市場の“求め”に応じて 企業の在り方を変えていく

小泉さんに廃プラスチックのリサイクルに取り組む思いを伺った。



海浜清掃で集めたプラスチックから作ったハーブポット。

「高品質で高収率なりサイクルを通じて人の生活を豊かにし、持続可能な社会を実現したいと考えています。市場での需要状況を探りながら商品開発を行っていますが、現在は成形品の製造が最も割合を占めています。今後はコンパウンドの技術を高めて、市場が求めている原材料を開発することで、売り上げを拡大していけたらと思います。この先、石油から作られるプラスチックについては制限が掛かることは間違いありません。再生プラスチックでニーズを満たす材料を作れることが求められるはずです。」

環境への取組も進めており、太陽光パネルを設置したほか、秋田県産水力発電由来の電力を使用するなどCO2排出量を大幅に削減した。また、令和2年から能代市で海浜清掃活動を行っており、回収したプラスチックでハーブポットを製造し、市内の小学校に寄贈しているという。

地域に貢献し、住民に愛される企業を目指し、子どもたちに明るい未来を残すための努力は続く。



自社の中で設計から解析まで行っている同社。ラボでは新たな商品開発にも取り組んでいる。